

# 西要寺だより

第120号 令和8年2月11日



「西要寺だより」をお届けいたします。

今号では、「報恩講法要」「歴史講座」「新年会」のご報告をお届けします。

## ●報恩講法要のご報告

去る10月19日・20日に、当山において報恩講法要を謹んで勤修いたしました。近隣寺院の御住職方とお勤めをした後、浄土真宗本願寺派総合研究所所長の佐々木義英先生（滋賀県・福田寺住職）より、ご法話をいただきました。



佐々木先生は、悲劇から説き起こされる『観無量寿経』の物語を軸に、私たちの苦悩に寄り添う阿弥陀さまの慈悲について、日系アメリカ人移民の歴史を交えてお話しくださいました。

第二次世界大戦中、アメリカに住む日系人は「敵性国民」とみなされ、十万人以上が砂漠地帯の劣悪な強制収容所に送られました。その過酷な生活の中で、彼らの心の支えとなったのは「お念仏」でした。彼らは手作りの仏壇に「南無阿弥陀仏」と記し、『正信偈』を唱えながら、信仰を糧に厳しい日々を生き抜いたのです。

佐々木先生はカリフォルニア州の仏教会で法話をされた際、ある歌を紹介されました。

「岩もあり、木の根もあれど、さらさらと、たださらさらと、水の流るる」

先生は、この歌を「亡き人が仏となり、その慈愛（水の流れ）が、私たちの煩惱（岩や木の根）に妨げられることなく、常に注がれている姿」とであると解説されました。

その時、法話を聞いていた日系三世の女性が、涙ながらに語り始めました。彼女は、強制収容所で苦勞した両親の姿を見て育ち、「なぜ自分たちだけが



こんな目に」という思いから、お寺や日本人、そして仏教そのものを長く拒絶してきたといいます。

しかし、生前の母が口癖のように繰り返していたこの「歌」の意味を初めて知ったとき、彼女の心は一変しました。

母がどれほどの苦しみの中でも、仏さまの慈愛に包まれ、さらさらと流れる水のような穏やかさを求めて生きていたのか――。その母の想いに触れた彼女は、自らのこれまでの態度を省み、「これからはお寺へ参ります」と誓われました。会場は大きな感動に包まれ、温かい拍手が沸き起こったそうです。彼女にとって、遠い存在だった仏さまが、お念仏を通じて亡き母とつながる「確かな絆」となった瞬間でした。

お経は、亡き人のためだけにあるのではありません。「今を生きる私」が安らかな心を得るための教えです。たとえ心に煩惱という泥があっても、阿弥陀さまの慈悲をそのままいただくことで、私たちの心には「信心」という一輪の花が咲きます。

亡き人は仏さまとなって、今も私たちに「お浄土でまた会おうね」と、さらさらと流れる水のように、慈愛を注ぎ続けてくださっています。



### ●新年会のご報告―― 詩吟とマジックに酔いしれたひととき ――

令和8年1月10日、西要寺一道会の新年会を賑やかに開催いたしました。今回は会員以外の方々もご参加くださり、例年以上に交流の輪が広がる素晴らしい集いとなりました。

アトラクションでは「北新地奇術倶楽部」の皆様によるマジックショーが披露され、

次々に繰り出される驚きの演出に、会場は大いに盛り上がりました(上 写真)。

続いて、一道会の木和田喜博会長が、松口月城作の詩吟「親鸞聖人(雪中布教の図に題す)」をご披露くださいました。

「北越の寒風 夜四更 門前 雪に臥す……」



黒いお衣（緇衣・しえ）をまとい、寒風吹き荒ぶ雪の中でも人々の救いを願い、布教を続けられた親鸞聖人。そのお姿を彷彿とさせる力強くも澄んだ吟詠に、参加者全員がその響きに引き込まれ、静かに聞き入っていました（右 写真）。木和田会長、心に深く残る感動をありがとうございました。



今年の干支は「午（うま）年」です。「何事もうま（馬）くいく一年に」と皆で願いを込めつつ、会場は終始和やかな笑顔に包まれ、閉会いたしました。

※11月22日に開催された歴史講座（岡村喜史先生）の詳しい模様は、次号にてお届けいたします。どうぞお楽しみに！

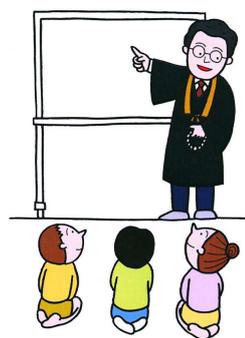
#### 【住職より：法要・法座に思うこと】

お経とは、今から約二千五百年前にお釈迦様が、死別の悲しみや生活の苦悩に身を置く「生きている人」に教えを説き、安らかな心持ち（さとり）へと導かれたものです。古代インドの言葉から漢文へと翻訳されたお経は一見難解ですが、その内容を現代の言葉で解説する「法話」を聞くことで、教えの理解はより深まります。法座は、お経と法話を通じて教えを二度聞くことができる、大変貴重な機会です。

現代社会は成果主義が重んじられ、目標に追われる日々の中で、多くの人が絶え間ないストレスを抱えています。常に「スイッチ・オン」の状態で走り続ける毎日では、誰だって息が詰まってしまうものです。だからこそ、時にはその緊張を解き、心を「オフ」にする時間が必要ではないでしょうか。

お寺の法座や法要は、そんな皆様にとっての「安らぎの場」でもあります。成果を出している人も、思うように結果が出ない人も、今は頑張ることさえ難しい人も。阿弥陀さまは一切の隔てなく、その深い慈愛の心ですべてを包み込んでくださいます。そして先に浄土へ往生された大切な方々も、今のあなたの歩みを温かく見守ってくれています。

こうして自分を見つめ直し、大いなる慈しみに触れるひとときが、明日へと



向かう私たちの「生きる力」になります。この一年も、法座や法要という大切な「ご縁」をどうぞ大切になさってください。

皆様と共に、お念仏のひとときを過ごせますことを楽しみにお待ちしております。今後の西要寺行事予定を次の通りご案内申し上げます。

◎西要寺行事予定◎

【定例法座】

2月22日（日）午後2時より

講題：『悪人』とは誰のことか？

講師：天崎 仁紹師

（本願寺派布教使、尼崎市塚口・西性寺副住職）

場所：西要寺会館

【定例法座】

3月22日（日）午後2時より

講師：西要寺住職

場所：西要寺会館

ホームページ（[saiyouji.com](http://saiyouji.com)）



または <sup>さいようじ</sup>西要寺 と検索ください。

浄土真宗本願寺派 <sup>さいようじ</sup>西要寺

661-0024 尼崎市三反田町1-7-27

TEL 06-6429-8241